

『医学教育コース』

— Medical Education Course —

名古屋大学医学部附属総合医学教育センター教授 錦織 宏

Center for Medical Education, Nagoya University NISHIGORI, Hiroshi

医学教育コースは、医療の高度化・複雑化、社会の急速な変化に伴い、医師に求められる能力が多様化している現状を踏まえ、医学教育の質の向上および高度化に資する人材の育成を目的として、名古屋大学大学院医学系研究科に2026年4月に開設された大学院教育プログラムです。

近年、医療を取り巻く環境は大きく変化しています。超高齢社会の進展に伴う疾病構造の変化により、単一疾患への対応のみならず、多疾患併存や慢性疾患の長期的管理、人生の最終段階における意思決定支援など、より包括的な医療が求められるようになっていきます。また、AIやデジタル技術の進展、医療安全への関心の高まり、患者中心の医療の推進、地域包括ケアの進展、医師の働き方改革など、医療のあり方そのものが変容しつつあります。このような変化の中で、医師には高度な専門知識や技能のみならず、コミュニケーション能力、協働性、省察的実践力、継続的な学習能力など、多様な資質・能力が求められています。

こうした時代において、医師をどのように育成するかという課題は、医学教育における中心的なテーマとなっています。かつて医学教育は、優れた臨床医が経験をもとに教育を担うことが当然視される側面がありました。しかし今日では、教育は専門的知識と技能を要する実践であり、科学的根拠に基づいて設計・実施・評価・改善されるべきものとして位置づけられています。優れた教育実践を実現するためには、教育理論への理解、適切な学習者評価、効果的なカリキュラム設計、学習環境の整備、教員能力開発など、多面的な専門性が必要です。

近年、日本の医学教育においても大きな改革が進められています。コンピテンシー基盤型教育の導入、教育の質保証、卒前・卒後・生涯教育の接続、学習者評価の高度化などを通じて、より質の高い医師養成が求められています。一方で、こうした改革を現場で実装し、持続可能な形で発展させていくための専門人材の育成は、必ずしも十分とはいえません。教育改革は制度設計だけでなく、それを現場で理解し、運用し、改善していく教育者の存在が不可欠です。

医学教育学は、こうした課題に取り組む学問分野です。医学という自然科学と、教育学、心理学、社会学、評価学、組織論などの人文・社会科学を架橋しながら、「どのように医師は学ぶのか」「どのような教育が成長を促進するのか」「どのような評価が学習を支えるのか」といった本質的な問いを探究します。対象領域は、カリキュラム開発、学習者評価、Faculty Development、シミュレーション教育、プロフェッショナルイズム、ウェルビーイング、AIを活用した教育、多職種連携教育など多岐にわたり、理論と実践の往還を特徴とする学際的な領域です。

国際的には、医学教育学を専門的に学ぶ大学院プログラムが広く整備されており、教育リーダーや医学教育研究者の育成に重要な役割を果たしています。一方、日本では、医学教育を体系的に

学び、学位として修得できる大学院プログラムは依然として限られています。そのため、教育に高い関心をもつ医師が、国内で体系的かつ学術的に学ぶ機会は十分とは言えず、医学教育の教育・研究基盤のさらなる整備が求められてきました。本コースは、こうした背景を踏まえ、日本では数少ない医学教育学の体系的大学院教育プログラムとして設置されたものです。

名古屋大学大学院医学系研究科は、これまでも医学教育分野において先進的な取り組みを進めてきました。総合医学教育センターを中心に、卒前教育、卒後教育、Faculty Development、シミュレーション教育、医学教育研究など、多面的な活動を展開しています。また、現場で働く教員・指導医を対象とした履修証明プログラム「現場で働く教員・指導医のための医学教育学プログラム(FCME)」を通じて、実践的な医学教育人材の育成にも継続的に取り組んできました。このFCMEは、現場の課題を持ち寄り、理論と実践を往還しながら学ぶ教育プログラムとして高い評価を受けており、本コースはその経験と成果を基盤として、さらに体系的・学術的な大学院教育へと発展させたものです。

本コースは、主として医師を対象とした社会人大学院として設計されています。現職を継続しながら学修することを前提とし、自らの教育実践や所属組織の課題を学びの対象とすることで、理論と実践を往還する学修を実現します。教育技法を学ぶだけではなく、現場で直面する課題を研究として捉え、科学的に分析し、改善につなげていく力を育成することを重視しています。教育現場での実践経験を、そのまま学術的探究の出発点とできる点は、本コースの大きな特徴です。

さらに、本コースは、単なる国内向けの教育プログラムにとどまらず、国際的な視野を備えた教育者・研究者の育成を目指しています。医学教育は国際的な知見の共有と対話によって発展してきた分野であり、日本の教育実践や研究成果を国際社会に発信していくことも重要です。名古屋大学大学院医学系研究科は、これまでも国際的な医学教育ネットワークとの連携を積極的に進めており、本コースもそうした国際的基盤の上に位置づけられます。

本コースの修了生には、医学部・大学病院・研修病院等において教育実践の中核を担い、カリキュラム開発、学習者評価、Faculty Development、教育組織運営、医学教育研究など、多様な領域でリーダーシップを発揮することが期待されます。教育現場における課題を理論的・実証的に分析し、改善へとつなげていく能力を備えた人材は、今後ますます重要になります。

本コースは、医師を育てる大学院教育プログラムです。医学教育の実践と研究の双方において中核的役割を担う人材を育成することを通じて、日本における医学教育の質向上に寄与するとともに、国際的な医学教育学の発展にも貢献することを目指しています。